

令和5年度 第1回四日市市地方創生推進会議

○日時：令和5年9月8日（金） 午後3時00分開会

○場所：四日市市役所6階 本部員会議室

○出席者：杉浦 礼子（名古屋学院大学 商学部教授）

（敬称略）秋田 和伸（四日市商工会議所 商工振興部長）

廣瀬 理恵（株式会社CBCクリエイション ディレクター）

別府 孝文（株式会社三十三総研 調査部長）

吉原 健一（ハローワーク四日市 次長）

○傍聴者：0名

○内容：下記のとおり

事項1 開会

事務局（政策推進課長）から開会。政策推進部長から挨拶の後、杉浦委員が委員長として会議を進行。

事項2 政策推進部長挨拶

- ・本日は、四日市市まち・ひと・しごと創生総合戦のこれまでの取組状況について評価検証を行っていただく。
- ・10年間の計画である総合計画は来年度見直しを行っていく必要がある。その第1弾として総合計画から抜粋した本戦略のこれまでの取組状況を確認する。コロナ禍、物価高、ウクライナ紛争等総合計画の策定時とは大きく社会情勢が変化していることを踏まえて忌憚のないご意見をいただきたい。

事項3 自己紹介

※出席委員より順次自己紹介

事項4 資料説明

【資料1】四日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【資料2】第2期四日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について

【資料3】企業版ふるさと納税について（報告）

事項5 意見交換

○秋田委員

- ・ 数値目標とKPIとの関連がわかりにくく感じる。直接関連していないものもあるので目標設定をもう少し検討したほうがよいのではないか。
- ・ 具体的施策の評価がなされていないので、取組が成功しているのか改善が必要な状態なのかが見えにくい。課題の記載を行った方がよい。
- ・ 目標に対する進捗評価は各KPIの進捗状況の総括を記載したほうがよいのではないか
- ・ KPIの中には件数や数値だけで評価することが必ずしも適切ではないものもある。P3企業立地奨励金については件数だけでは評価できるものではない。単に件数だけではなく、ポイント制にするなどして、市として立地していくべきと考える業種の場合はポイントを加算するなど市の産業施策の方向性が見える工夫も必要ではないか。
- ・ 評価のABCDであるが、基準を設けることで誰がみても分かりやすくなる工夫が必要
- ・ 具体的施策の中には未着手のものもある。その場合は理由をより詳細に記載すべきである。

○事務局（政策推進課長）

- ・ 数値目標と達成率の数値を、分かりやすく評価に反映すべきと認識している。数値目標の設定に関しても指摘いただいた点を踏まえて、今後設定する際には検討していきたい。

○廣瀬委員

- ・ 基本目標2の進捗状況は【C】の状況である。新型コロナの影響もありB-1
- ・ グランプリも先送りになってしまった。広く中京圏において四日市をPRしていくにあたり、四日市市にはたくさんの良い観光資源がある。例えば、そらんぽ四日市、久留倍官衙遺跡、旧四郷村役場、朝市等も各所で開催されている。

よい観光資源や施策があっても情報発信して中京圏の様々な人に知ってもらわなければ意味がない。

- ・ インスタグラム等を活用し、どんどん情報を発信していくことが重要。インフルエンサーを活用することで、不特定多数だけではなくある程度見てもらいたい方を特定するような発信も可能である。
- ・ もみじ谷は駐車場が非常に小さかったり、四日市ドームから工場夜景を撮影する場合でも非常に暗く女性が一人で行くには危険である。情報発信と同時に観光資源に付随する駐車場整備や安全確保のためのインフラ整備を行うことで、人の集客につながっていく。

○事務局（政策推進課長）

- ・ どう発信していくかは課題として認識している。誰をターゲットにしていくのかやりたい施策をどのようにしていくのかを明確にして発信していくようにしたい。
- ・ 観光スポットのハード整備には時間を要するので進捗状況等をわかりやすく示している仕組みづくりが必要と考えている。

○別府委員

- ・ 基本目標を4つ掲げているが、全体像がわかりにくい印象。具体的施策同士の関係性がわかりにくいため、KPIを客観的なものにした方がよい
- ・ 具体的施策と数値目標との因果関係やなぜこの目標値にしたのかという根拠が示されているとよい。住民満足度という観点からの指標を考えてもよいのではないか
- ・ 四日市の特性から産業面の施策については、どうしても産業振興の視点からの目標になるのはやむを得ないが、中小企業はバブル期並みの人不足になっており、人の確保の視点、人口をどう維持していくのかの視点を入れてもよいのではないか

○事務局（政策推進課長）

- ・ 指摘いただいた通り因果関係や体系立てて目標設定をしていくことが重要
- ・ 人の確保は必須課題となってくるので、目標への反映も検討していく

○吉原委員

- ・ 成果を強調したくなるだろうが、課題・問題点をどうとらえているかを記入すること

も重要ではないか

- ・ コロナ前後で社会の情勢が大きく変わっている。求人倍率もいったん戻りかけたが、戻りきるまでいかず足踏み状態である。例えば、コロナを契機に AI 対応可能となったものなどは今後も継続していくのではないか。
- ・ 女性の就労を支えていくのであれば、保育所の充実は必須。保育士の処遇を充実させていくことも必要だが、悩み相談等に乗るような相談体制も重要であり、いかにして採用した人が継続して就労してくれるかも重要なポイントである。

○事務局（政策推進課長）

- ・ 四日市の特徴である製造業。企業誘致を進めるとともに、人が足りていない企業に向けての IT 活用等支援も行っているが、今まで以上に支援をしていく必要がある。
- ・ 保育士の確保については、今年度設置した幼児教育センター等で現場の保育士がかかえる悩みの相談にも対応していく。

○杉浦委員

- ・ 評価検証のしくみを検討。4つの基本目標に対して、どういう KPI を設けるのか。モニタリング等も行っていく必要があるのではないか。
- ・ 目標年度は令和6年度となっているが、年度ごとの推移と目標値を設定し、進捗管理し、公表していく必要があるのではないか。
- ・ 取組概要部分に課題を明確に記載することで、翌年度どういった対応をしていく必要があるのかも見えてくるのではないか
- ・ 目標の進捗評価の判定根拠が明確ではないため、こういう結果だから〇〇評価というようにできる仕組みづくりが重要。
- ・ 四日市市の特性を考えれば公害の体験からくる環境の視点、四日市港や臨海部のコンテナの立地を踏まえた防災面の視点を計画に入れていった方がよいのではないか
- ・ 企業版ふるさと納税に関しては、個人のふるさと納税同様に本来の納税対象の市から流出してしまう危険性もあるため、企業が制度を利用してよかったと感ぜられるような仕組みづくりの検討もしてもらえるとよい。

4. 総括

杉浦委員長

- ・ 全体構成をもう少し工夫する必要がある。どうしてこの指標になるのか、具体的施策を実施できたときに指標が向上するようになるような関連性を持った体系にできるとよい。評価基準の根拠を明確にした方がわかりやすくなる。
- ・ 観光資源の発掘と安心安全のインフラ整備は並行して取組ができるとよいし、情報発信は継続していく必要がある。

5. 資料説明（事務局から説明）

国のデジタル田園都市国家構想戦略への対応について（報告）【資料4】

6. その他

※特に意見なし

7. 閉会

荒木政策推進部長

本日は活発なご意見いただきましてありがとうございます。私共事務局といたしましても今回いただいたご意見を踏まえ、四日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗が図れるよう精一杯取り組んで参りたいという風に考えてございますので、また皆様方のお力添えよろしくお願い致します。

本日は誠にありがとうございました。

- ・ 第2回目の地方創生推進会議の開催予定等については、会議開催は令和6年3月27日（水）15：00～開催を予定しているため、ご予定をお願いしたい。